科目名	基礎化学	学年	類型・コース	単位数
		２年	総合選択 C2･工業(バイオとかがく)	２単位

学習の目　標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。			
教科書 副教材	主たる教材：基本ステップノート化学基礎（浜島書店)、自作プリント 副教材：なし			
評　価	評価法	定期考査や小テスト、提出物の内容、授業に対する取り組みや意欲を総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技術	化学の基本となる化合物の名前や構造､反応を理解しているかを定期考査や小テストなどで確認します。
		b	思考・判断・表現	元素や化合物や反応反応を考え､説明できるかを授業での発表や反応、レポート、定期考査などで確認します。
		c	主体的に学習に取り組む態度	授業での発表や反応、理解を深めるノート、追加課題の考査への出題などで主体的に取り組んだかを確認します。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（1～10 の 10 段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（1～５の５段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法 a	評価方法 b	評価方法 c
1学期	4月	6	指数、比例割合計算、	化学の基本的な計算を身につける。	中間考査 小テスト 期末考査	中間考査 発表 期末考査	発表 ノート 課題 振り返り
	5月	8	原子量・分子量・式量	原子･分子･イオンの質量の表し方について理解する。			
	6月	8	物質量(mol)ｱﾎﾞｶﾞﾄﾞﾛ法則、	原子・分子・イオンの粒子の一定数の集団を量の単位として取り扱うことを理解する。			
	7月	4	気体と物質量	物質量の計算を習得できるようにする。			
夏休み							
2学期	9月	8	溶解と溶液の濃度	物質が水に溶ける現象や溶液の濃度の表し方について理解する。	中間考査 小テスト 期末考査	中間考査 発表 期末考査	発表 ノート 課題 振り返り
	10月	8	物質の変化と化学反応式	物質の変化とその変化の表し方について理解する。			
	11月	8	化学反応式と量的関係	化学反応式が物質量の関係、質量や気体の体積関係を表されていることを理解する。			
	12月	4	量的関係のまとめ	化学量論を考えながら、計算を習得できるようにする。			
冬休み							
3学期	1月	6	酸と塩基、水の電離と PH	酸性・塩基性の特徴や強さの表し方について理解する。	小テスト 期末考査	発表 期末考査	発表 ノート 振り返り
	2月	6	中和反応と塩、中和滴定	中和反応の量的関係について理解する。量的関係を利用して濃度不明の濃度が求められることを理解する。			
	3月	4	中和滴定のまとめ	中和滴定について理解し、反応式や定量計算を習得できるようにする。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
化学計算をしていく上で必要な物質量（mol）や濃度の基本的な計算ができるように基礎から学んでいきます。それを基にして医薬品の原料に含まれる成分の量を計算できるようにしていきます。